

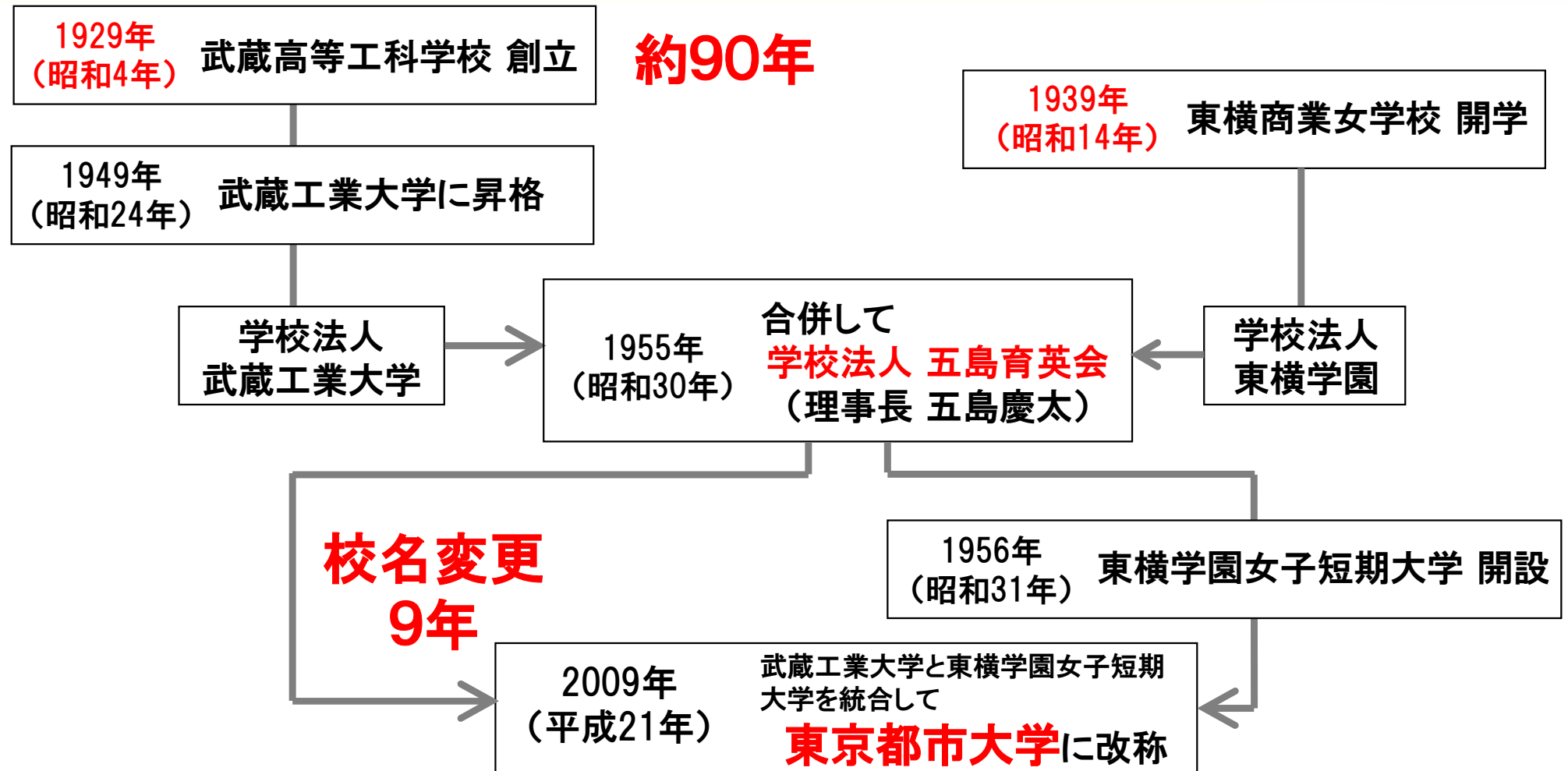
東京都市大学におけるAP事業の取組

主体的学びの確立と 卒業時の質保証に向けた取組

東京都市大学
副学長(教育担当)・教育開発機構長
皆川 勝



東京都市大学の沿革



(都市大グループ: 高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園)





学部・研究科構成

(6学部18学科・2研究科)



工学部

- 機械工学科
- 機械システム工学科
- 原子力安全工学科
- 医用工学科
- 電気電子工学科
- エネルギー化学科
- 建築学科
- 都市工学科

知識工学部

- 情報科学科
- 情報通信工学科
- 経営システム工学科
- 自然科学科

都市生活学部

- 都市生活学科

人間科学部

- 児童学科

環境学部

- 環境創生学科
- 環境マネジメント学科

メディア情報学部

- 社会メディア学科
- 情報システム学科

総合理工学研究科

環境情報学研究科



学生数 7,457名
 大学 6,856名
 大学院 601名

(平成30年5月1日現在) 東京都市大学
TOYO KAI UNIVERSITY

東京都市大学の 建学の精神・教育理念

武蔵高等工科学校

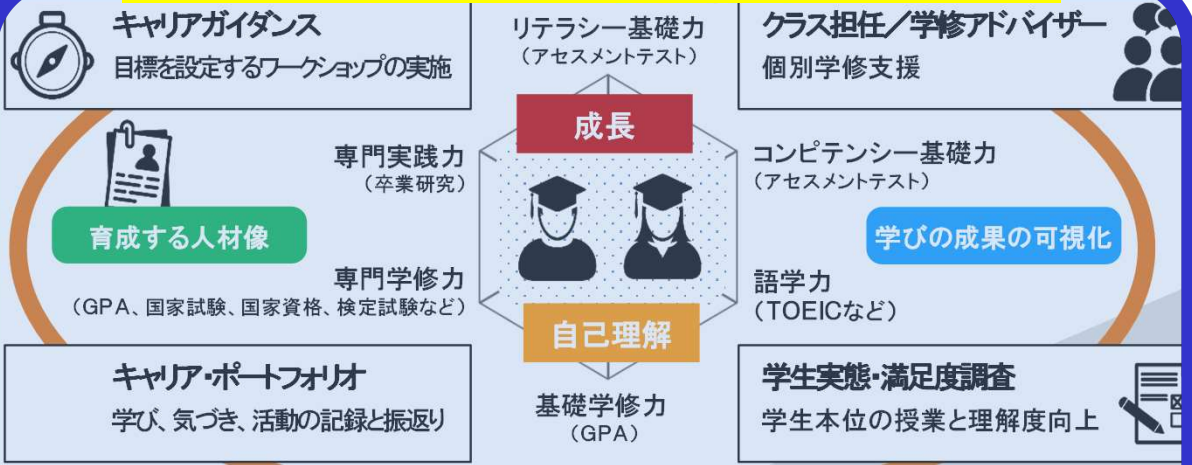
より充実した教育を求める**学生の声**から発足
建学の精神・・・「公正・自由・自治」

教育理念

- ボーダーを超えて、
- **学生と教職員が共に考え、学び、行動することで**
- 社会に貢献できる人材を育てる。



社会に通用する学修成果を4年間で育む仕組み



プレ・ディプロマサプリメントにより、学修の習熟度を教員と学生が共有し、学生のキャリア形成と学修プログラムに生かす体制を整備

プレ・ディプロマサプリメント



学修成果を目に見える形で社会に示すための仕組み

ディプロマサプリメント

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

<定性情報>

- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 学位の情報
- ✓ 履修履歴
- ✓ 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報

<学修成果に関する定量情報>

卒業生調査

活動実態の把握
結果の分析と教育改善

就職先等

ディプロマサプリメントの活用
人材ニーズ調査の実施と分析

外部評価

企業、官公庁、研究機関、
他大学教員、卒業生、
高校関係者等で構成

【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	30年度 (目標値)
学生の授業外学修時間(1週間当たり)	4.2時間	10時間	20時間	20時間
卒業生追跡調査の実施率(調査回答者数/卒業者数)	未実施	20%	25%	30%
学生の成績評価(GPAの平均)	2.35	2.40	2.50	2.75

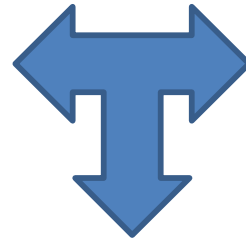
◆ 卒業までの過程で身につけた力を身に付けたかを学生と教職員が客観的に把握・評価でき、さらにその成果を目に見える形で社会に示し、共有していくことが可能になる。

◆ ディプロマサプリメントの開発と活用を通じて、専門性の高い多様な学部で実践的に学ぶ学生と支援する教職員との連携体制を構築し、多くの大学に導入可能な連携モデルとして広く波及させることができる。

取り組みの背景

厳しい卒研指導

→ 出口での保証には
自信があった



社会的要請 = 真の実力

→ 1~3年次の教育充実
がなされていない！

**学生の立場から、自身が自己理解を深め
成長を実感できる教育基盤の必要性**



高校 → 大学1~4年 → 社会人

シームレスな接続に基づく長期視点の人材育成

**将来に耐え
うる人材**



本来の教育改革のベースは、中長期計画(アクションプラン2030)

<ビジョン> 80年を超える専門的実践教育の伝統に加えて、「都市」をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の大学を目指す。

教育の質保証

キャンパス教育環境向上

ブランド力向上

大学運営向上

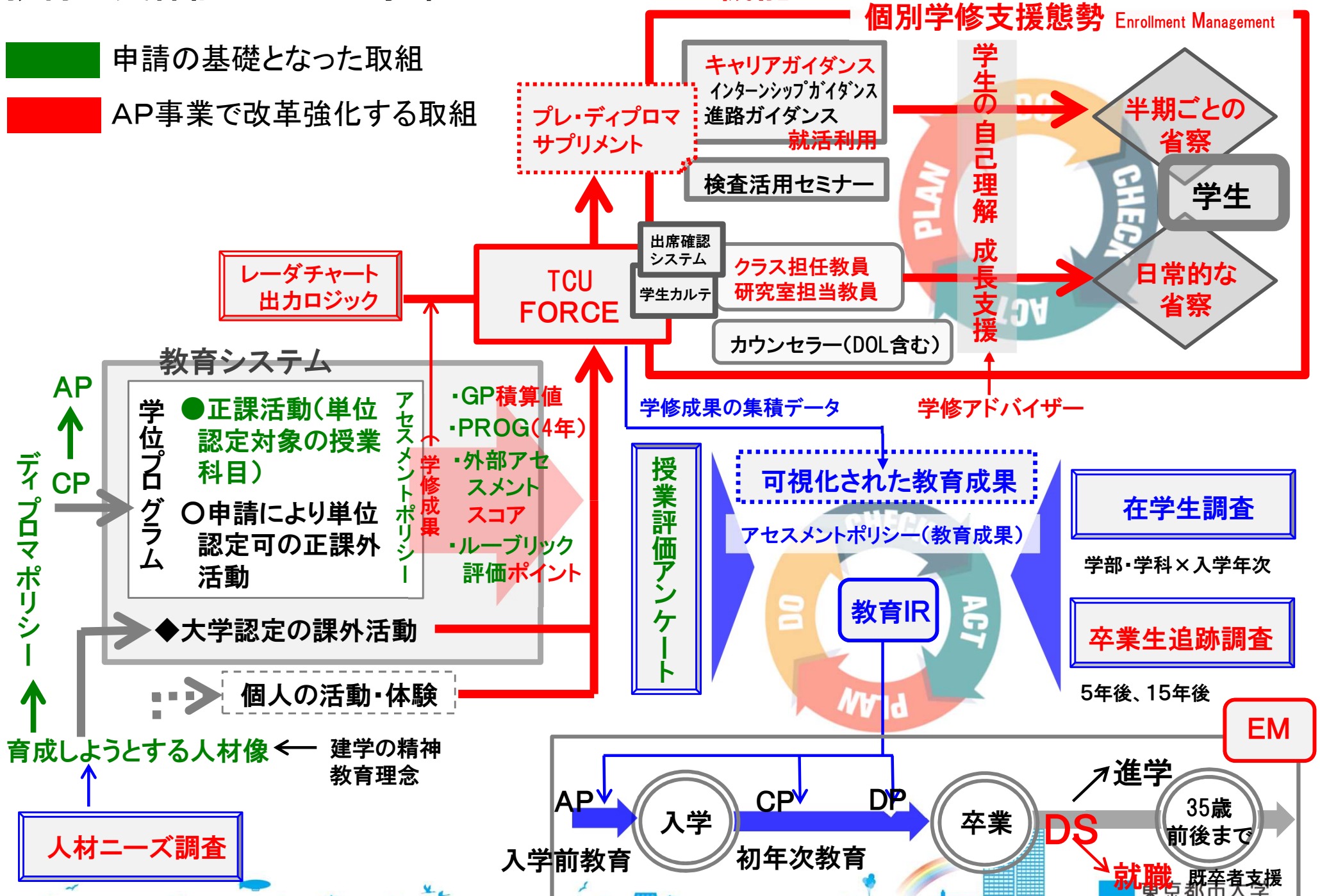
輩出する人材像：「自ら学び、社会の発展に貢献する、責任感と実践力を持つ人材」

教育の質保証プロジェクト

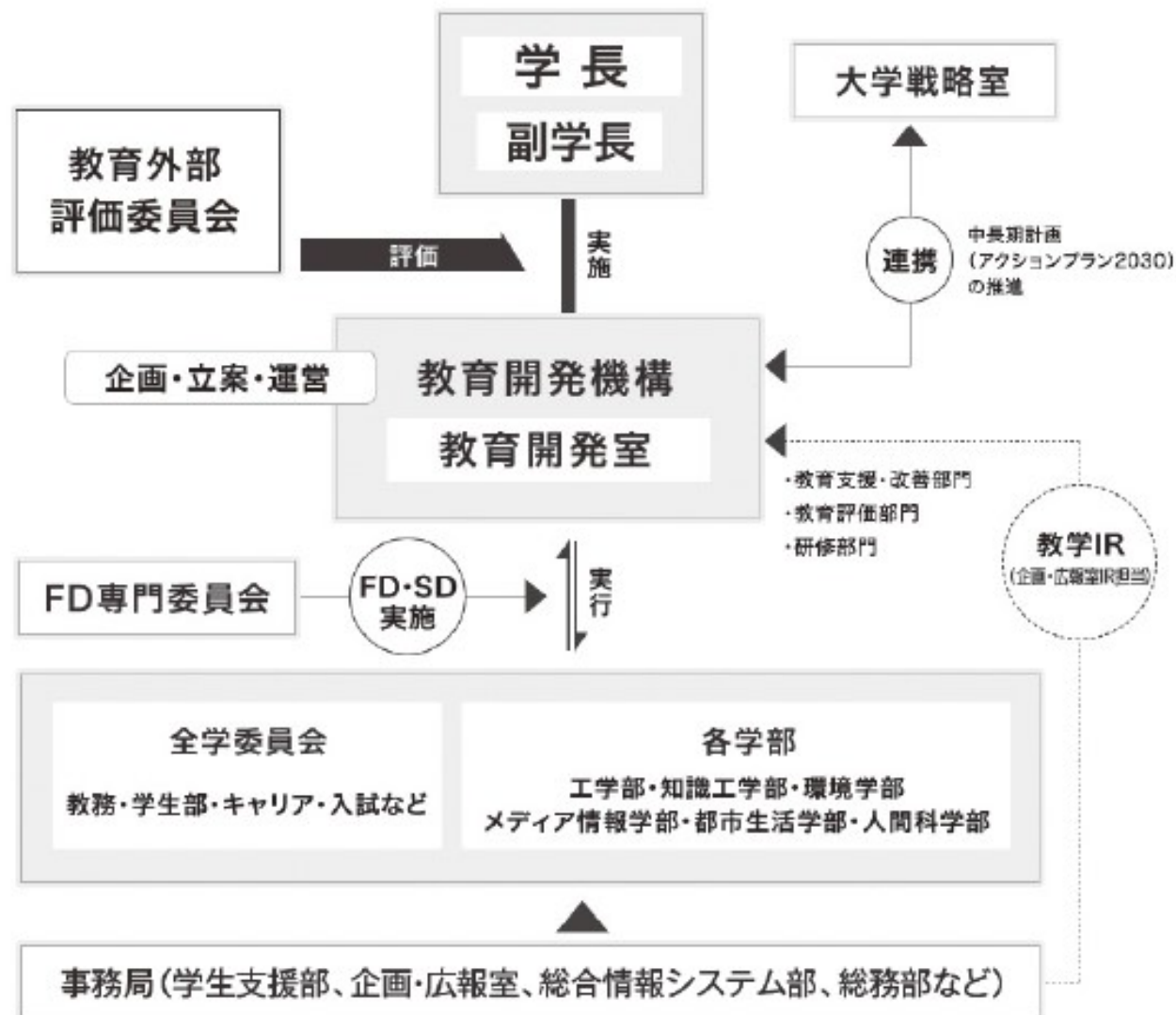
施策・事業案	2020年度目標	2030年度目標
1. 都市大教育理念に則った教育プログラムの確立		
①明確な教育目標の設定 ②教育目標に応じたカリキュラムの再構築 ③新しい教育制度の導入 ④主体的な学修を促す教育方法の導入 ⑤自校教育の導入	<input type="checkbox"/> 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムが構築できている	<ul style="list-style-type: none"> ■国際標準の教育プログラムが確立されている ■また、それが展開できている
2. 教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築		
①FD活動による教育システムなどの開発 ②教育プログラムの実効性の確認 ③教員相互協力による教育能力向上 ④マネジメントシステムの第三者評価	<input type="checkbox"/> 教育の質保証が実証できるマネジメントシステムが構築できている	■内外問わず高い評価を得られるマネジメントシステムが定着している
3. グローバル化に対応した人材の育成		
①学生のグローバル・リレーションシップ育成 ②実践的英語教育の導入 ③学部学科単位による海外留学の推進 ④英語による授業の実施 ⑤教職員のグローバル化教育	<input type="checkbox"/> グローバル人材育成のためのシステムが整備され、確立できている KPI: 学生の海外学習経験者数年間200名以上	■国際社会で活躍できるスキルを身につけた人材が育成できている
4. 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成		
①体系的なカリキュラムの構築 ②学部・大学院の一貫教育の導入 ③国際会議発表の推進 ④産学連携/地域連携による共同研究の推進	<input type="checkbox"/> 研究レベル向上の為に大学院教育プログラムが確立できている	<ul style="list-style-type: none"> ■大学院の研究レベルが国際社会で高い評価を受けている KPI: 博士号輩出、年間50名以上

教育の質保証PJにAP事業でアドオンされた機能

- 申請の基礎となった取組
- AP事業で改革強化する取組



事業の実施体制



AP選定後の取組

①改めて、「社会に通用する」学修成果とは何か、その学修成果はどう評価すべきか、を全教職員で考え、全学DPと全学CPの策定を進めてきた。

- 「人材ニーズ調査」、「卒業生追跡調査」の実施と結果分析
- 「育成する人材像」の輩出すべき人材要件としての翻訳
- 外部評価委員会とのセッション、有識者を招いての勉強会等の実施
- 全学FD・SDフォーラムの開催
- 第1回APシンポジウムの開催

②「社会に通用する学修成果」を、全学生が獲得して卒業できる新たな教育システム案を検討し、その基盤構築を開始した。

- 学修成果要素の信頼性を高めるGPA等既存の評価方法の再点検・整備
- 自己理解の支援ツールとしてプレ・ディプロマサプリメントシステム(e-ポートフォリオ)の開発
- キャリアガイダンスプログラムの企画リニューアル
- 「個別学修支援システム」の構想・体制構築着手

③学生が培った「社会に通用する学修成果」を、本学としてどう社会(・企業)に提示・活用していくかの内容・形を決めた。

- ディプロマサプリメントの開発

企業からの生の声 ※技術者系の回答の抜粋

強く主張するタイプが少ない

3. 東京都市大学卒業生（技術者）に対するその他の感想

Q16. 貴社に在籍する東京都市大学の卒業生（技術者）について、上記の能力以外で、評価や感想はありますか。あら場合は、ご遠慮なくご意見を入力ください。

技術者系 東京都市大学卒業生（技術者）に対するその他の感想：自由記述

<優秀>
活躍している従業員が多い
知識が豊富で、講師として勉強会を開いたり、会社内での貢献度が高いと思います。
基礎的な学力、一般常識、コミュニケーション能力が高く、前向きなため、ベースとなる人間力が高く、顧客折衝などに向いている。
冷静な判断ができる ・自分のペースで仕事ができる ・疲れない
周囲の評価も高く、チームへの貢献度の高い人物です。
当社の中では、3名とも上位層に位置づけられ、課員を指導育成できる力がある。
業種ではあるが、基礎学力と人柄が素晴らしい。社内外問わず、時間をかけて信頼を勝ち取れる人材が多いように感じます。
入社 4 年目になりますが、とても優秀な方です。説明会等でも学生の皆さんに、会社や仕事内容について、お話ししてもらう機会がありますので その際にも、自分がどんな研究をしていたか、今何に役に立っているか等も積極的に説明しています。 行市の期待できる人材です。
人数は2名しかいないが、二人共重要な仕事を任せられています。1名は、技術者から営業と転身していますが、顧客への対応も問題のない人材です。
入社して 8 年経ち、業務に必要な多くの国家資格も順調に取得し、長期の技術研修を経て、現在は設備工事の技術者として仕事を任せられています。専断ですが仕事への責任感が強く、残業や休日出勤が続く時期でもミスなくしっかり完了させます。非常に優秀で将来はスペシャリストとして大いに期待できます
海外事業部に所属するベテラン社員と、2 年目の社員が所属しており、非常に優秀です。2 人は社歴が違うので比較できませんが、海外事業部に所属するベテラン社員は着実に経験を積み重ねて、大役を担っています。2 年目の社員は、新しい技術分野の部署で周囲の社員と協力しながら毎日頑張っています。
誠実に取り組む姿勢について、非常に「優れている」と評価しています。
優秀で問題解決能力が高い

<優秀>

<真面目>

少しのんびりした風

割とおとなしめ

<真面目>
真面目さと誠実さのある方が多いと思います。
比較的眞面目な学生が多いと感じます。少しのんびりした面もあるように思います。
とにかくまじめに取り組んでいる姿勢は評価します。割とおとなしめ。
まじめで、仕事をしっかりする方が多いと思われます。
横浜キャンパスの教授もおっしゃっていらっしゃいましたが、文系の卒業生は素直さがある印象です。理系の学生

は、強く主張するタイプが少ない傾向です。
複数おられますが、各員ともまじめに積極的に業務に取り組んでいます。ありがたいことです。
土木の技術者が在籍しています。まだ、未経験のことが多数ありますが、毎日頑張って業務に動んでくれています。
常に自発的に行動をし、電話応対や先輩のフォローなど、嫌な顔をせず何でも率先して取り組んでくれます。また、物事の優先順位の付け方もしっかりしていて、悩みを溜め込まない、とても前向きで、仕事を楽しみながら頑張っている印象です。
とてもしっかりしていて誠実に仕事に取り組んでいただいています。
業務に対し真摯に取り組んでいる。
非常に前向きに仕事をしてもらっています。学生時代に苦労してきているので、いろんなことがあっても乗り切っていたいただける人物だと思っています。器用ではないので、理解に少し時間がかかっているように見えますが、いったん理解すると応用できる方なので、2、3年後が楽しみです。
与えられた仕事に対して真摯に取り組んでいると感じます。

<コミュニケーション>
コミュニケーションに優れていると思います。
環境に溶け込む能力が高く、明るく元気に施工管理の仕事をしていきます。入社3年目の時点で社内論文の上位を獲得した方もおります。
自身の職務に忠実で、誇りを持ち、夢中になって業務に取り組んでいる。人柄が温かく親身になって他社に接する。技術が好きである。
性格的な部分が大いだと思うが、コミュニケーションをとることが上手い。何事も落ち着いて行動するため、何かにつけて協力を求めることが多い。

親身。温かい人柄

<専門性>
技術力、人間力のバランスが良い
<チームワーク>
管理者として活躍している人材が多い。技術者であるが、マネジメント能力を発揮できる人材が多い。
誰にでも笑顔で接し、相手の立場で物事を考える能力。

技術力・人間力のバランスのよさ

<行動力>
思考から行動に移るスピードの速い方が、結果的に在籍しています
仕事環境の改善力。トラブル改善力。親切。

<大人しい>
3 名の対象者がおりますが、大人しい印象があります。しかし、時間を長く共にすると思いがけない一面や外びしりをとても感じることも多いと感じています。時間をかけて相互理解をすること、時間がかかっても良いので引き続き目の前の役割や業務にまい進してもらうこと、この 2 点を気に掛けながら一緒に働くことで大きな成長をしていただけると期待しています
論理的な思考、課題や情報の理解力は高いと思う。他職上の問題ではあるが発言が控えめでおとなしい。

発言が控えめでおとなしい

人材ニーズ調査・卒業生追跡調査の結果

<企業・社会からの人材要請>

- ◆ 困難な課題にも前向きに取り組む人材
- ◆ 取り組んだことは最後までやり抜く人材
- ◆ 自分なりに工夫し、自発的に行動する人材
- ◆ 誠実にチーム貢献し、周りの信頼を得る人材
- ◆ 語学力と国際性の素養を持つ人材

<都市大卒の企業からの評価>

- ★ **全般**: 取り組んだことは、自分なりに工夫しながら最後までやり遂げる
- ★ **技術系**: 優秀で真面目。一方で大人しく、控え目。強く主張するタイプは少ない
- ★ **技術系以外**: 前向き、積極的、雰囲気づくりが上手

<OB・OGの就業後の自己評価>

- 自律的行動力、業務への責任感・使命感への自己評価は高い
- 積極的なアイデア・意見出し、大局感を持った仕事、変革推進力、等への自己評価はやや低め



「育成する人材像」の輩出すべき人材要件としての翻訳

●自ら学び、社会の発展に貢献する責任感と実践力を持つ人材

- (1) やらないといけないことをやり続けて身につけた「努力できる確かな自信」を感じさせる(目標に向けて地道な行動レベルが高い)
- (2) 最終成果につながるまで、考え、行動し続ける(やり遂げる、成果にこだわる)
- (3) **自分ができることや希望を、臆せず正しくアピールし、チーム貢献ポジションを自らつくれる(一歩前に出るリーダーシップと生産性を高めるフォロワーシップ)**
- (4) **得た知識やスキルを既存の枠組みで活用するだけでなく、自分たちで新たな枠組みを作り上げようとする(付加価値を高めることへの旺盛なチャレンジ精神)**
- (5) **海外・異文化社会に出ても、まごつかないだけの語学力と、その場をプラスのムードに変えていけるたくましさ(現場・現実で活かせる国際性・教養)**

これまでも輩出してきた人材。これをより多数に!

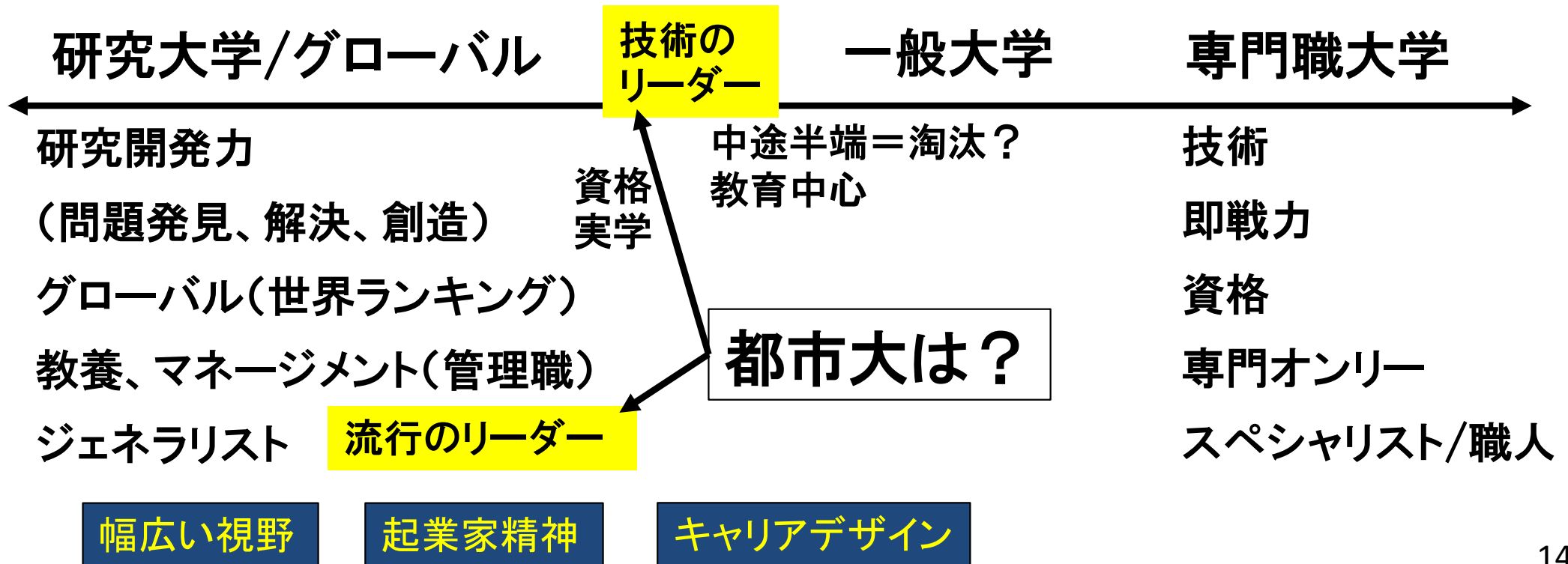
AP事業の取り組みによって、都市大生に新たなカラーを加えていく!

都市大の目指す「人材像」とは？...

35歳

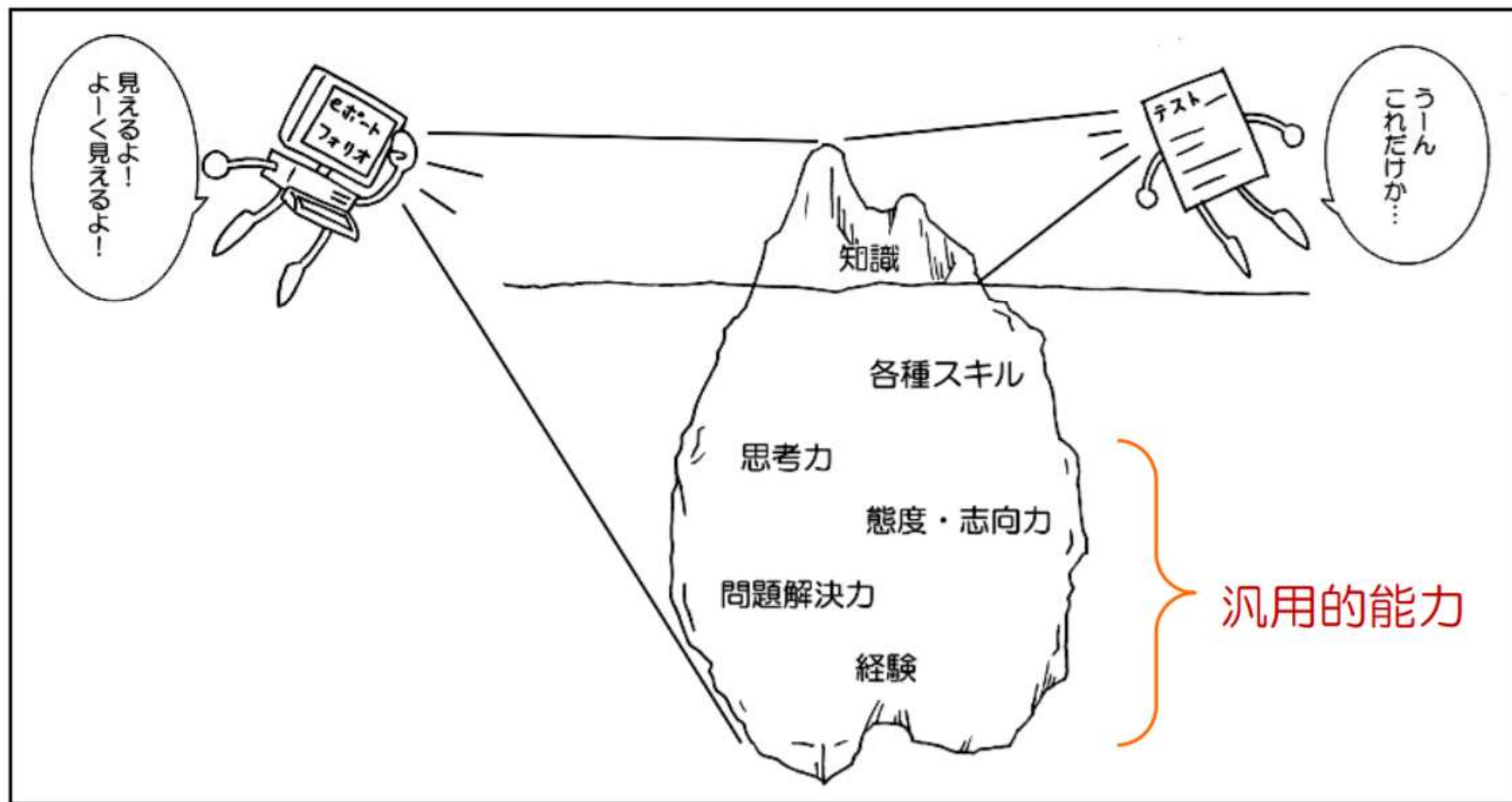
耐ストレス/スペシャリスト = たゆまぬ努力、技術の進化を図れる人
能動的(主体性)あり = 自ら進んで、壁に立ち向かう人
クリエイティブな人 = 常識を突き破り、限界を飛び越える人
ジェネラリスト = 技術のリーダー、流行を作れる人

氷山の下の部分を発掘する！

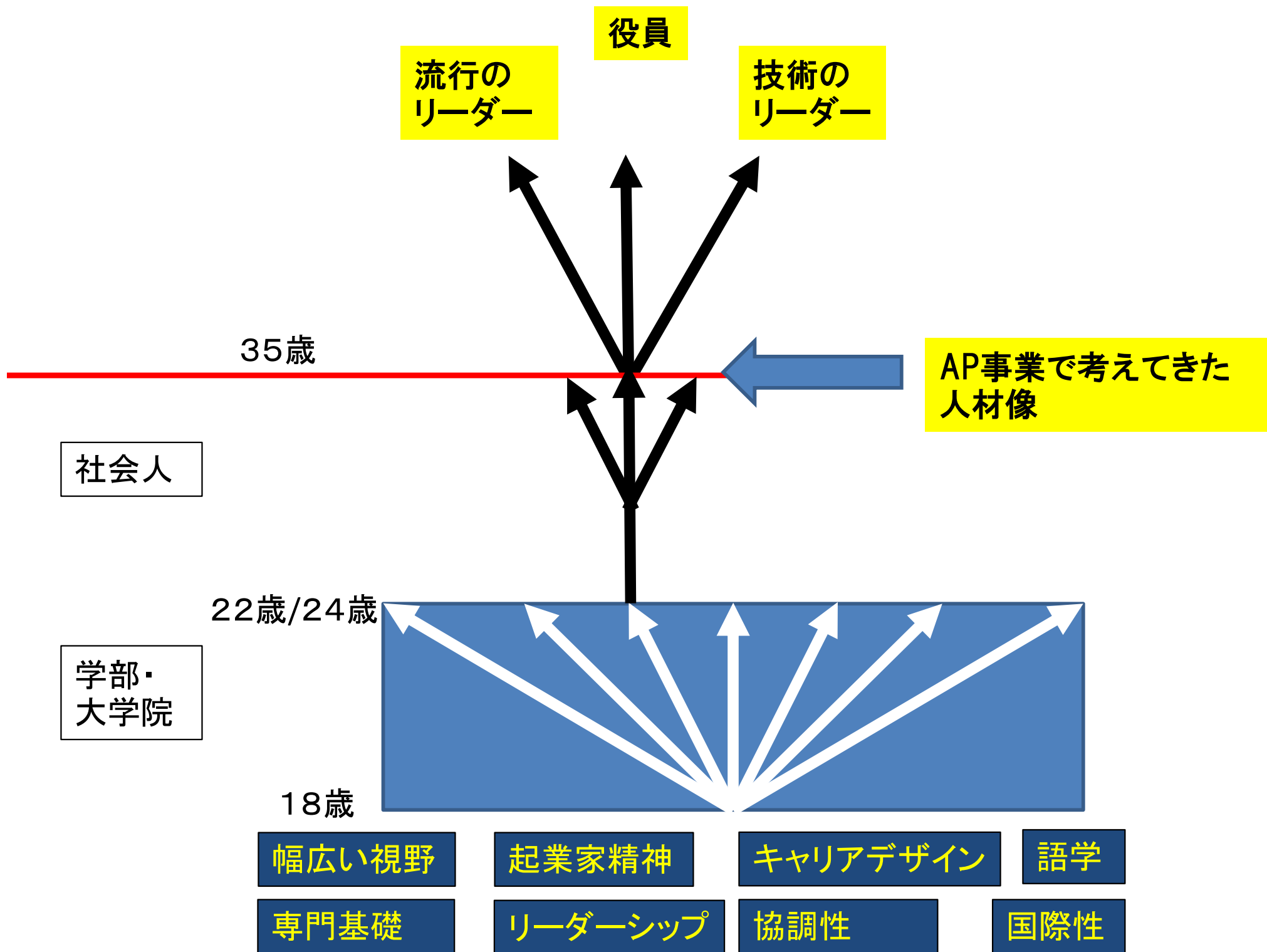


総合的達成度評価の重要性

教育の質保証（アウトカムズ保証）には継続的なパフォーマンス評価が重要 — テストで測ることが出来る能力は限られている —



出典：東京学芸大学 森本康彦准教授「森本研究室ホームページ」



幅広い視野
 専門基礎

起業家精神
 リーダーシップ

キャリアデザイン
 協調性

語学
 国際性

本学が考えた学修成果の本質と、その評価の基本的あり方

●社会・企業、時代が一番求めているのは「主体性」

- ・入学してきた生徒に、「主体性」という付加価値を付けて社会に送り出すことは、大学の重要な責務の一つ(=全教職員がコミットすること)
- ・主体性とは、他人事(ひとごと)ではなく「自分事で学ぶ」こと

●「社会に通用する」学修成果とは

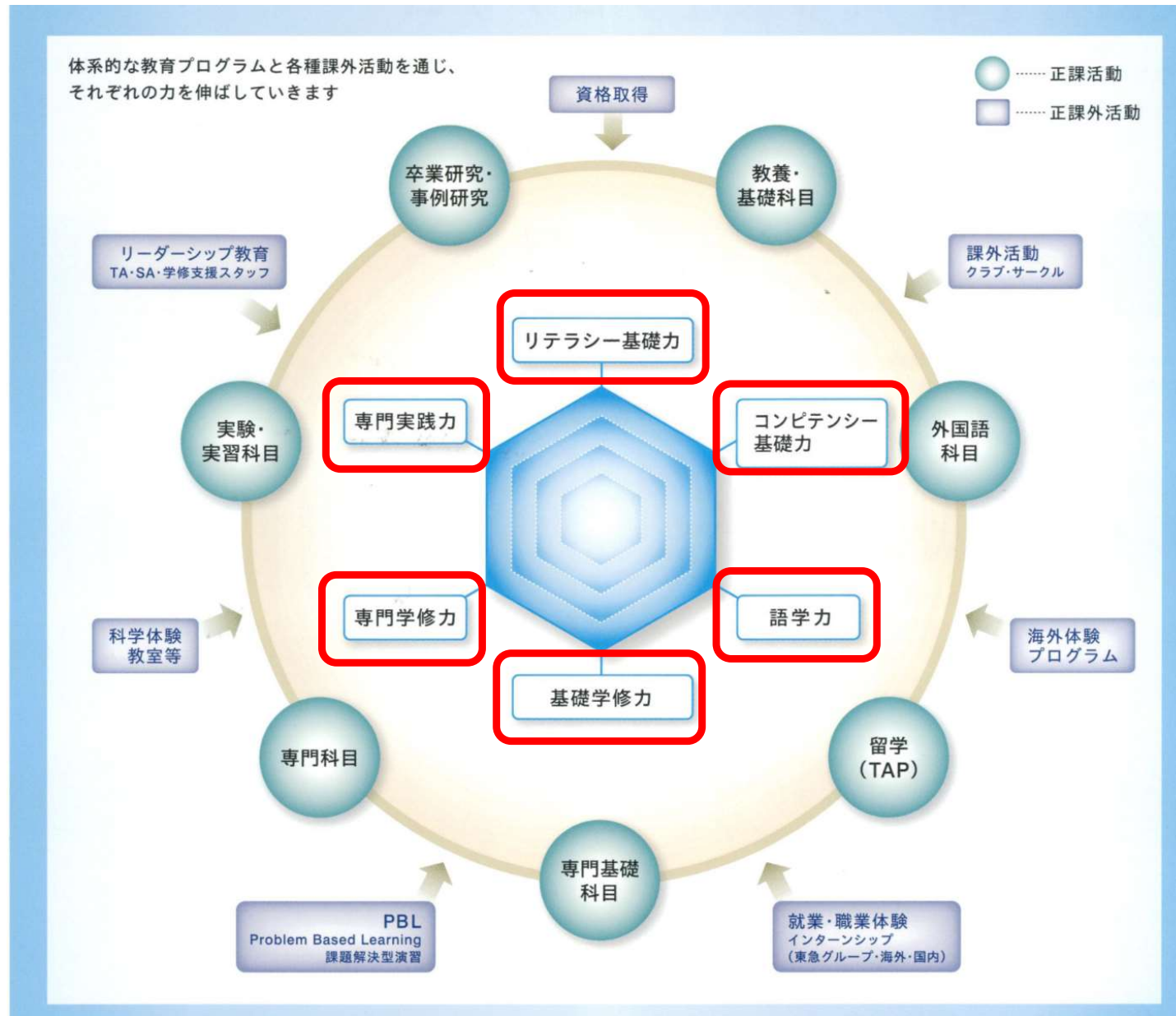
- ・「自分は社会に出ても何とかやっていける」という確かな自信

●「社会に通用する学修成果」の評価は

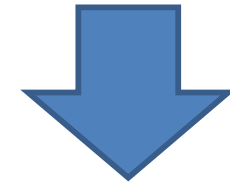
- ・学生の学ぶ目的が「自分事」になっているかどうかを見る
- ・学生が学んで得たことを、「自分の言葉(※)」で語れるかを見る
※自分にとって、どういう意味や意義あることとして捉えているか



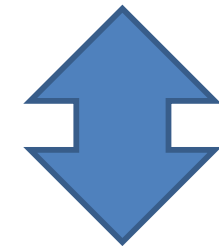
学修成果(学生の成長)を具体的にどう評価していくか



成長要素の
指標化



学修成果の
可視化



客観性・妥当性
活用方法



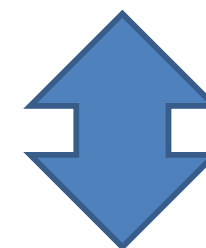
学修成果(学生の成長)を具体的にどう評価していくか

リテラシー 基礎力	「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」の4つの要素から構成される、学んだ知識を活用して問題を解決する力を身につけている。また、学び・研究活動のベースとなる、正解のない問題に対して解決に向け、論理的に考える力を身につけている。
コンピテンシー 基礎力	大きくは「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」の3つの要素から構成される、人と自分にベストな状態をもたらす力を身につけている。
語学力	国際的視野に立つ幅広い教養と専門性を身につけた上で、それらを的確に表現、伝達し理解を得るためのコミュニケーション能力を身につけている。また、この能力を駆使して必要な協力を得るとともに、協働して活動できる力を身につけている。
基礎学修力	大学での学びに必要な学修に取り組む態度と基礎的な素養を持っているとともに、自ら学ぶための意欲を持っている。また、大学での学びに必要な学修の方法と基礎的知識の活用方法を身につけている。
専門学修力	基礎的な素養を十分に理解した上で、各分野における高度で専門的な知識を理解し修得している。また、自らの専門分野の研究をより深めることにより、自ら課題を発見し、解決する力を身につけている。
専門実践力	大学で修得した学修成果、研究成果を広く社会、さらには世界に問い、働きかける準備ができている。また、積極的に社会に貢献する姿勢を持ち、社会での実践により、さらに学修、研究の質を高めていく力を身につけている。

成長要素の
指標化



学修成果の
可視化



客観性・妥当性
活用方法



学修成果(学生の成長)を具体的にどう評価していくか

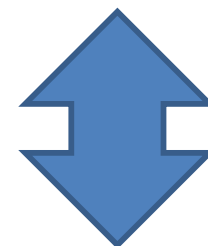
＜育成する人材像＞

自ら学び、社会の発展に貢献する責任感と実践力を持つ人材

成長要素の
指標化



学修成果の
可視化



客観性・妥当性
活用方法

I. 「自ら」学び続ける力						
II. (社会の発展に貢献する)責任感						
III 社会の 発展に 貢献する 実践力	1. リテラシー基礎力		①学んだ知識を活用して問題を解決する力			
			a. 情報収集力			
			b. 情報分析力			
			c. 課題発見力			
			d. 構想力			
		●	②正解のない問題に対して解決に向け、論理的に考える力			
	2. コンピテンシー基礎力			①人と自分に最適な状態をもたらす力		
				a. 対人基礎力	親和力	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成、など
					協働力	役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機づけ、など
					統率力	意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得、など
b. 對自己基礎力				感情制御力	セルフウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント、など	
				自信創出力	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己改革、など	
				行動持続力	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化、など	
c. 対課題基礎力				課題発見力	情報収集・本質理解・原因分析、など	
				計画立案力	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析、など	
				●	実践力	実践行動・修正・調整・検証・改善、など
3. 語学力			●	①国際的視野に立つ幅広い教養と専門性を身につけた上で、		
				②それらを的確に表現、伝達し理解を得るためのコミュニケーション能力		
				③この能力を駆使して必要な協力を得るとともに、協同して活動できる力		
				・英語の4技能		
4. 基礎学修力			○	①大学での学びに必要な学修に取り組む態度と基礎的な素養		
			●	②自ら学ぶための意欲		
			○	③大学での学びに必要な学修の方法と基礎的知識の活用方法を身につけている		
5. 専門学修力			○	①基礎的な素養を十分に理解した上で、		
			○	②各分野における高度で専門的な知識を理解し修得している		
			● ●	③自らの専門分野の研究をより深めることにより、自ら課題を発見し、解決する力を身につけている		
6. 専門実践力			● ●	①大学で修得した学修成果、研究成果を広く社会、世界に問い、働きかける準備ができている		
			● ●	②積極的に社会に貢献する姿勢を持ち、社会での実践により、さらに学修、研究の質を高めていく力		

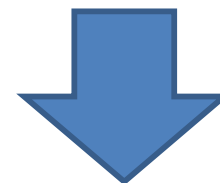


学修成果(学生の成長)を具体的にどう評価していくか

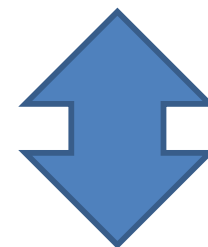
[プレ・ディプロマサプリメント] (全件詳細版)

[ディプロマサプリメント] (最終評価版)

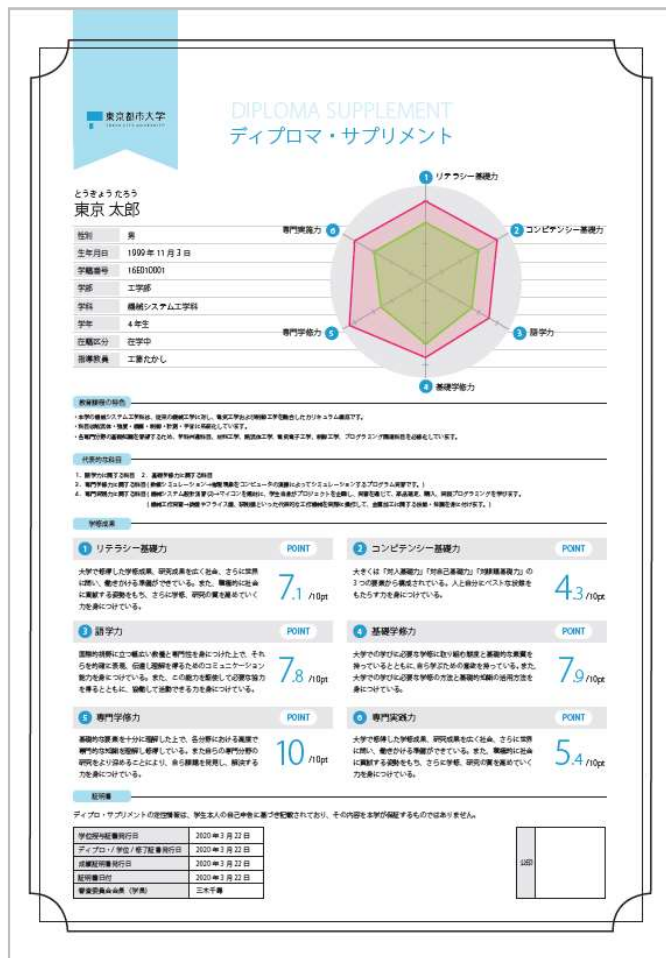
成長要素の 指標化



学修成果の 可視化



客観性・妥当性 活用方法



e-ポートフォリオ 「TCU-FORCE」の開発

学生が正課や正課外などの活動で培った経験を登録していくことで、学生の持つ様々な力を可視化し、教職員の支援を受けながら「自己理解と成長」を促す学修支援システム

「FORCE」 = **FOR** Career **E**nrollment

※Enrollmentとは記載、登録、入学の意味
入学前から、在学中、卒業後までを一貫して
サポートする総合的な学生支援策

「エンrollment・マネジメント(Enrollment Management)」
を意識



TCU-FORCEの機能

1年生からその都度、学生自身の情報を
確認し、成長度合いを認識できる

- ①レーダーチャートによる**定量**情報の表示
- ②承認されたアピールポイントの**定性**情報の表示
- ③キャリアガイダンスで目標設定⇒振り返り⇒再目標設定
＜PDCAを習慣化＞
- ④キャリアポートフォリオ機能で日々の活動を記録

※④キャリアポートフォリオ機能のみ学生本人だけが閲覧可能、①～③の機能は教職員も閲覧可能

学生画面（トップ画面）

TCU FORCE

学生TOP



性別 男
生年月日 1995年10月01日
学籍番号 [REDACTED]
学部 工学部
学科 工学部 機械システム工学科
学年 4年生
在籍区分
指導教員 [REDACTED]

ディプロマサプリメント

プレディプロマサプリメント
帳票出力



学年 4年 3年 2年 1年

区分 グラフ内訳 アピール項目 ガイダンス 活動記録



目標・省察

学年	換算
4年	-
3年	-
2年	-
1年	-



日々の活動記録...

学年	換算
4年	-
3年	-
2年	-
1年	-



あしあと作成

学生画面(学修活動の申請)

あしあと

年度	必須	2018年度
評価ユニット	必須	語学系試験
評価項目	必須	TOEIC
補足		A
開始日	必須	2018/06/20
終了日		
得点	必須	700
詳細		A
添付ファイル	+	ファイル選択

点 (英検の場合次で入力する。1級:1, 準1級:2)

PDF, X, P, etc.

担当教員に承認を求めるエビデンスとなる
報告書や資格証明書などのファイル添付が可能

ETS TOEIC OFFICIAL SCORE CERTIFICATE

KOKUSAI HANAKO

Name: KOKUSAI HANAKO
Registration number: 0500000-3
Date of birth: 1993/05/01
Administration number: 200
Test date: 2015/06/24

LISTENING
Your score: 300
Percentile rank: 99%

READING
Your score: 250
Percentile rank: 99%

TOTAL SCORE
550

国際花子

100-0014
東京 千代田区
永田町 2-14-2

国際花子 様
84510509 321654

スコアの読み方
Percentile rank(パーセンタイルランク)
ある人のスコアをある集団の中において、ある人のスコアに
対して何パーセントの人がスコアが低いのかを示す。今回の集計は、
2011年1月から2014年12月までの世界中で実施したTOEIC公開テスト
の全受験者です。
ABILITIES MEASURED(アビリティ)は、リスニングとリーディングの
スコアを基に、リーディングでのスコアに対する正確性を示して
います。申請者のスコアをある集団の中において、ある人のスコアに
対して何パーセントの人がスコアが低いのかを示す。今回の集計は、
2011年1月から2014年12月までの世界中で実施したTOEIC公開テスト
の全受験者です。各項目の正確性は他のスコア
と異なる場合があります。また、今回の
スコアは他のスコアと比較して受検した時期の比較は
できません。

学修成果(学生の成長)を具体的にどう評価し活用していくか

- ◆ プレ・ディプロマ・サプリメント及びディプロマ・サプリメントによる学生の学修成果の評価を、アセスメント・ポリシーの中で明示（平成30年7月）

<評価の目的>

1. 学生が自分の身に付けた力を把握し、自己理解を深め、次なる成長のための学修活動に結びつけるため
2. 教職員が学生の身に付けた力を把握し、学生の「自己理解と成長」に資する示唆・助言を行うため

<達成すべき質的水準>

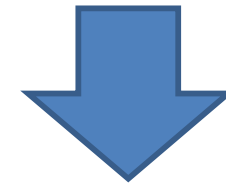
1. 学生が身に付けた学修成果が本学の輩出したい人材像「自ら学び、社会の発展に貢献する責任感と実践力を持つ」に叶ったものであること
2. 身に付けた学修成果が、「自分事で学んだ」結果のものであると学生が自己評価できること
3. 身に付けた学修成果によって、「自分は社会に出ても何とかやっつけていける」と学生が自信を持てるものであること

以上を踏まえ、具体的達成水準として、卒業時に学生が身に付けた学修成果が、本学の定義した6つの力(リテラシー基礎力、コンピテンシー基礎力、語学力、基礎学修力、専門学修力、専門実践力)でそれぞれ60%以上のスコアで示せること

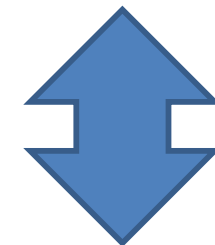
<評価の実施方法>

1. 本学の教育課程を通して身に付けた学習成果は、その学力・能力を直接アセスメントできる方法で評価する。
 - ・ 授業科目 GP により、基礎学修力・専門学修力の全部、専門実践力・語学力の一部
 - ・ 語学系外部試験により、語学力の一部
 - ・ 基礎能力アセスメントにより、リテラシー基礎力、コンピテンシー基礎力
2. 本学の教育課程を通して身に付けた総合的な成果(学修成果)は、大学認定の課外活動やその他学生生活全般での様々な体験をポートフォリオにしたものを対象に、担当教員が個別に評価・自己理解を促し、成長支援する。
 - ・ eポートフォリオにより、専門実践力の一部、語学力の一部
 - ・ 学生の省察を個別面談により、「社会で活躍できる実践力」全般

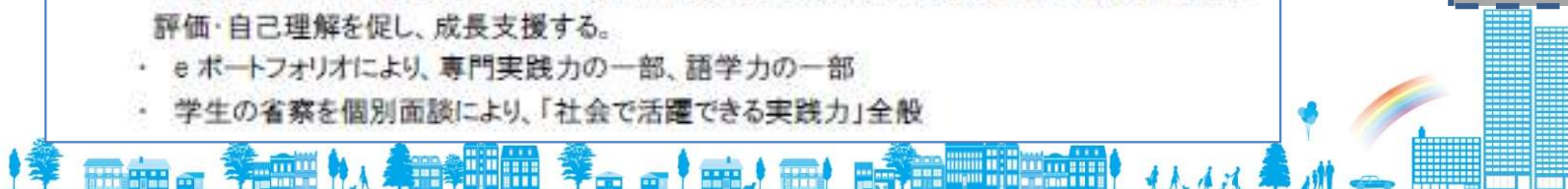
成長要素の
指標化



学修成果の
可視化



客観性・妥当性
活用方法



TCU-FORCEにおける教職員の役割

学生が自己理解を深め、成長に向けて主体的・自律的に活動することを支援する、身近な存在としての役割

- ex.)
- ・学問・専門の立場からだけでなく、社会で働く先輩として、学生がPDCAをうまく回していくための、気づきやヒントを与えるアドバイザー
 - ・努力や成長を認め、褒め励まし、時に失敗や挫折に共感し、勇気づける、学生から見て頼りになる存在

★具体的に要請したこと

- ① 「TCU-FORCE」での**学生の学修活動の承認やコメント記入**による日常的な応援・アドバイス

※学科として、各学生の承認担当は誰が行うかを決定。担当教員に学生からの承認依頼が来た場合には教員用画面のアイコンとメールでお知らせ

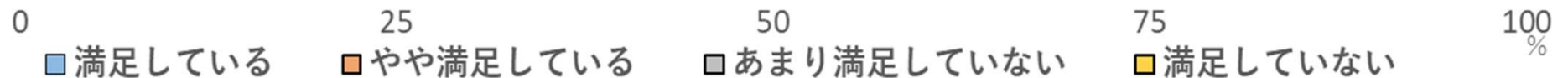
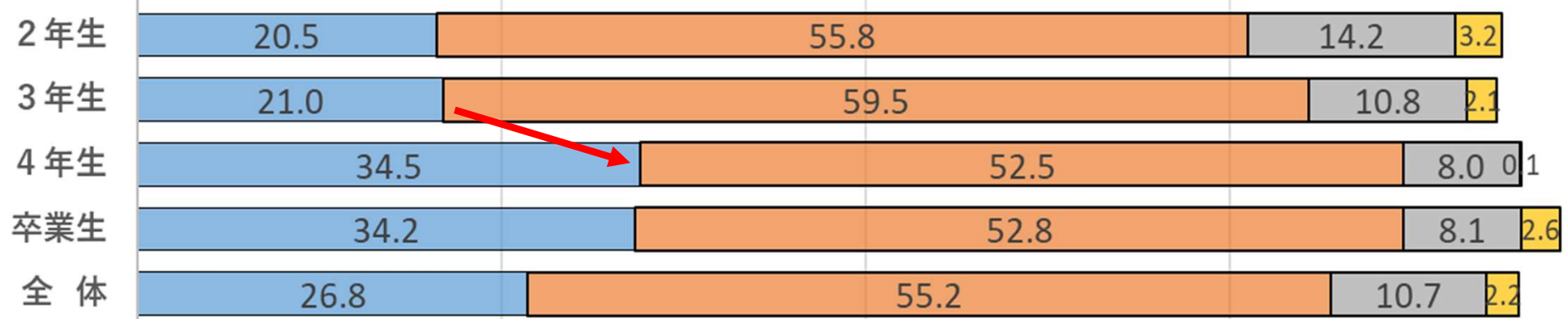
- ② 「TCU-FORCE」などを活用した**個人面談**による学修支援

学年別の学生満足度（平成29年度）

本学での学生生活の満足度



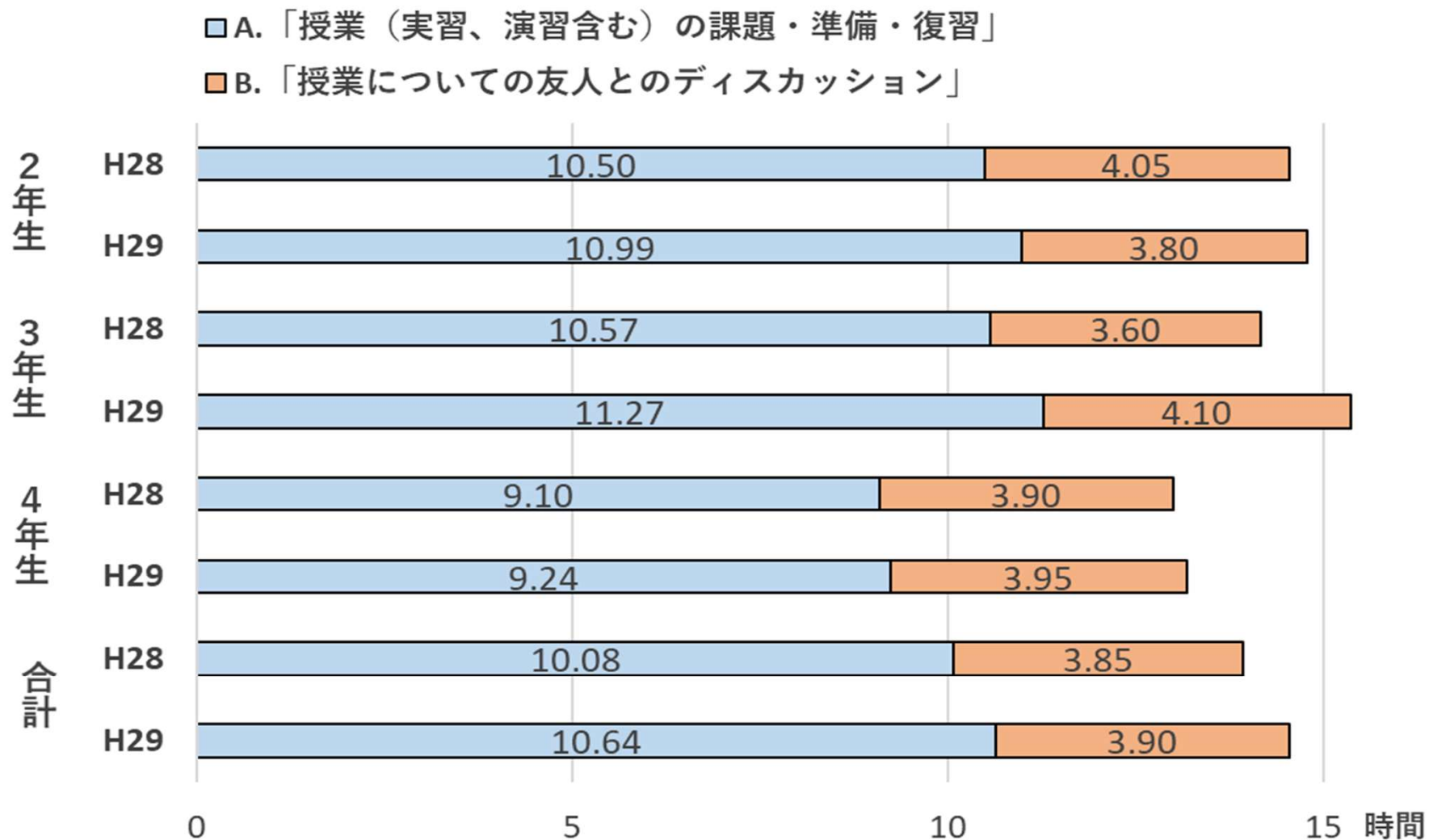
所属学科の教育の満足度



・進級後の4月及び卒業時に調査実施（※2～4年生の学年表記は進級後の学年）



1週あたりの授業外学修時間（平成29年度）



・進級後の4月及び卒業時に調査実施（※2～4年生の学年表記は進級後の学年）

- ・自律性や学習意欲がより求められる授業の準備・復習等の時間は10時間程度
- ・授業についてのディスカッションは週4時間程度



現在進めている主な施策①

<教育目標>

- ◆ これまでの議論をもとに、全学共通のDP・CPを明文化

<授業外学修時間の増加>

- ◆ 授業運営の支援・ICT(LMS、高機能ソフトウェア、映像コンテンツ)の活用による教育効果の向上
- ◆ TAの活用、リーダーシップ研修会の開催
- ◆ PBLを中心に、アクティブ・ラーニングでの学生との向き合い方や先進の教育手法に関する学内研修をシリーズ化

<成績評価>

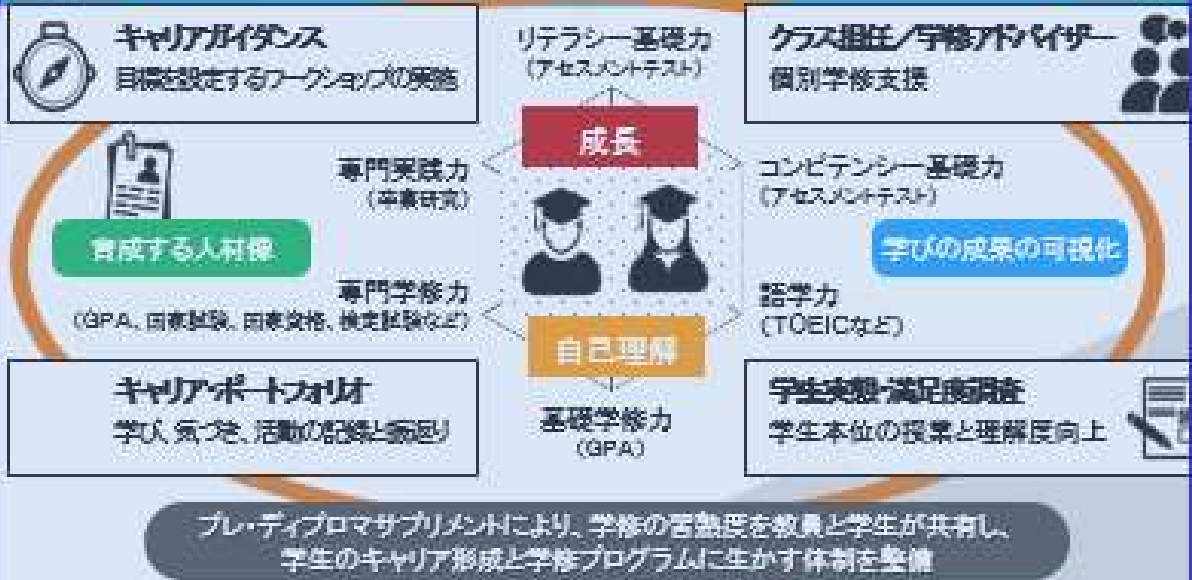
- ◆ 授業科目ごとの平均GPと成績分布の開示決定とその準備
(平成30年度は教職員、平成31年度は教職員と学生に開示)
- ◆ 平成30年度から、成績評価(得点)をより厳密に反映した機能的な functional GPA(f-GPA)制度を導入

<授業改善・教育改善>

- ◆ 全学授業公開週間の導入
- ◆ 授業評価アンケートの全学共通化と、その検証・活用
- ◆ 学生実態調査の改訂実施と、その結果の組織的活用



社会に通用する学修成果を4年間で育む仕組み



(1)初年次教育プログラム開発

(2)卒研ノウハウの3年次カリキュラムへの反映

学修成果を目に見える形で社会に示すための仕組み

卒業時 必要とされる能力の獲得

ディプロマサブリメント

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

＜定性情報＞

- ✓学生に関する情報
- ✓学位の情報
- ✓履修履歴
- ✓課外活動履歴
- ✓取得した資格に関する情報

＜学修成果に関する定量情報＞

リテラシー基礎力

専門実践力

コンピテンシー基礎力

語学力

卒業時

卒業生調査

活動実態の把握
結果の分析と教育改善

就職先等

ディプロマサブリメントの活用
人材ニーズ調査の実施と分析

企業、官公庁、研究機関

(3)DSの企業・社会通用性の仮説立て・検証の深化

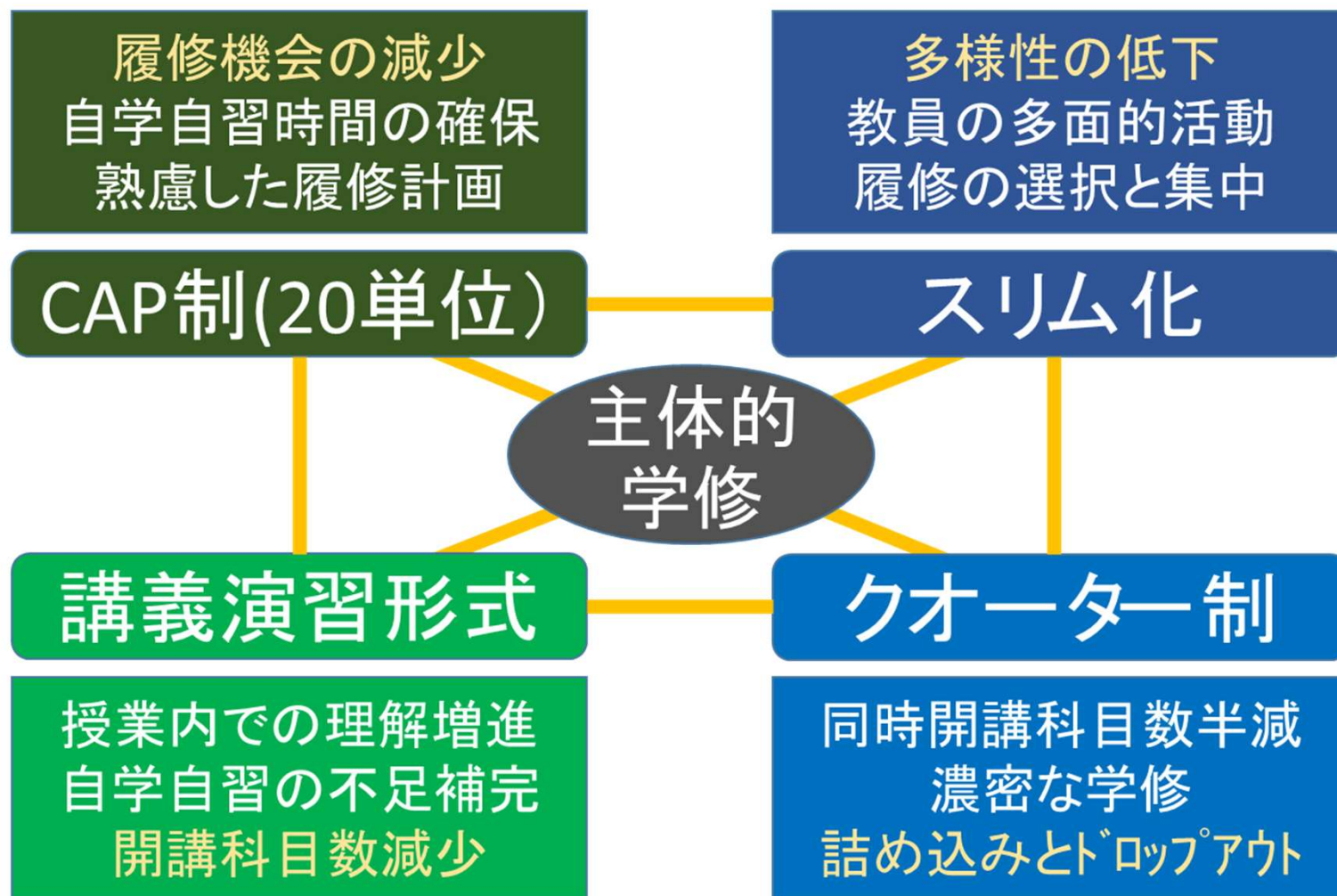
- ◆卒業生と成果を能く活用
- ◆ディプロマサブリメントの開発と活用を通じて、専門性の高い多様な学部で実践的に学ぶ学生と支援する教職員との連携体制を構築し、多くの大学に導入可能な連携モデルとして広く波及させることができる。

現在進めている主な施策②

- **学修成果の可視化**：現在，AP事業で進行中
 - ・ TCU-FORCEシステムを開発、教育成果の見える化
 - ・ ディプロマサプリメント、プレ・ディプロマサプリメント発行
- **「強み」・「特色」**：加速するべき、教育改革の中身は何か
 - I. **大学全体としてのポリシー**の下での、学部学科教育プログラム展開
 - II. クォーター制、科目のスリム化、CAP制、学習時間の確保による、**教育成果を保証**
 - III. ギャップイヤー、TAP(東京都市大学オーストラリアプログラム)
・TUCP(東京都市大学&カンタベリー大学留学プログラム)など、**グローバル展開**への障害の少ない教育システムの確立
 - IV. 学習者が**主体的に学ぶ体系的カリキュラム**の構築



東京都市大学 教育課程編成方針2020



履修上限単位数と1週あたりの自学自習時間

上限履修単位数	すべて講義	講義演習 半々	すべて演習
20単位 (クォーター10単位)	40時間	25時間	10時間
24単位 (クォーター12単位)	48時間	30時間	12時間
28単位 (クォーター14単位)	56時間	35時間	14時間



「東京都市大学型 導入教育 “心に学びの灯を点ける”プログラム」

公正・自由・自治の精神で
専門職業人として
自立的に学び続ける
東京都市大学の卒業生



都市研究の東京都市大学型
持続可能社会を志向する
Problem-Based Learning
(SD-oriented PBL)

東京都市大学型 導入教育
心に学びの灯を点ける
プログラム

SD-oriented PBL I による
全学一斉の
スタートアップセミナー
↑
1泊2日の
フレッシューズキャンプ
↑
ウォーミングアップ
セミナー I・II・III

3~4年生

教養系学修

専門学修

3年生

SD-PBL III

2年生

SD-PBL II

SD-PBL I

自己目標
社会課題への問題意識と自分事化
仲間や教員、環境の信頼感・安心感
自己決定、認知の翻轉性、自己有用感
自校教育→大学への誇り
自覚・責任・期待
ワクワク感

DSIによる質保証

プレDSIによる
学びの可視化 ⇒ メタ認知力

勉学活動
(AL、自学、
実験、演習、
視察等)

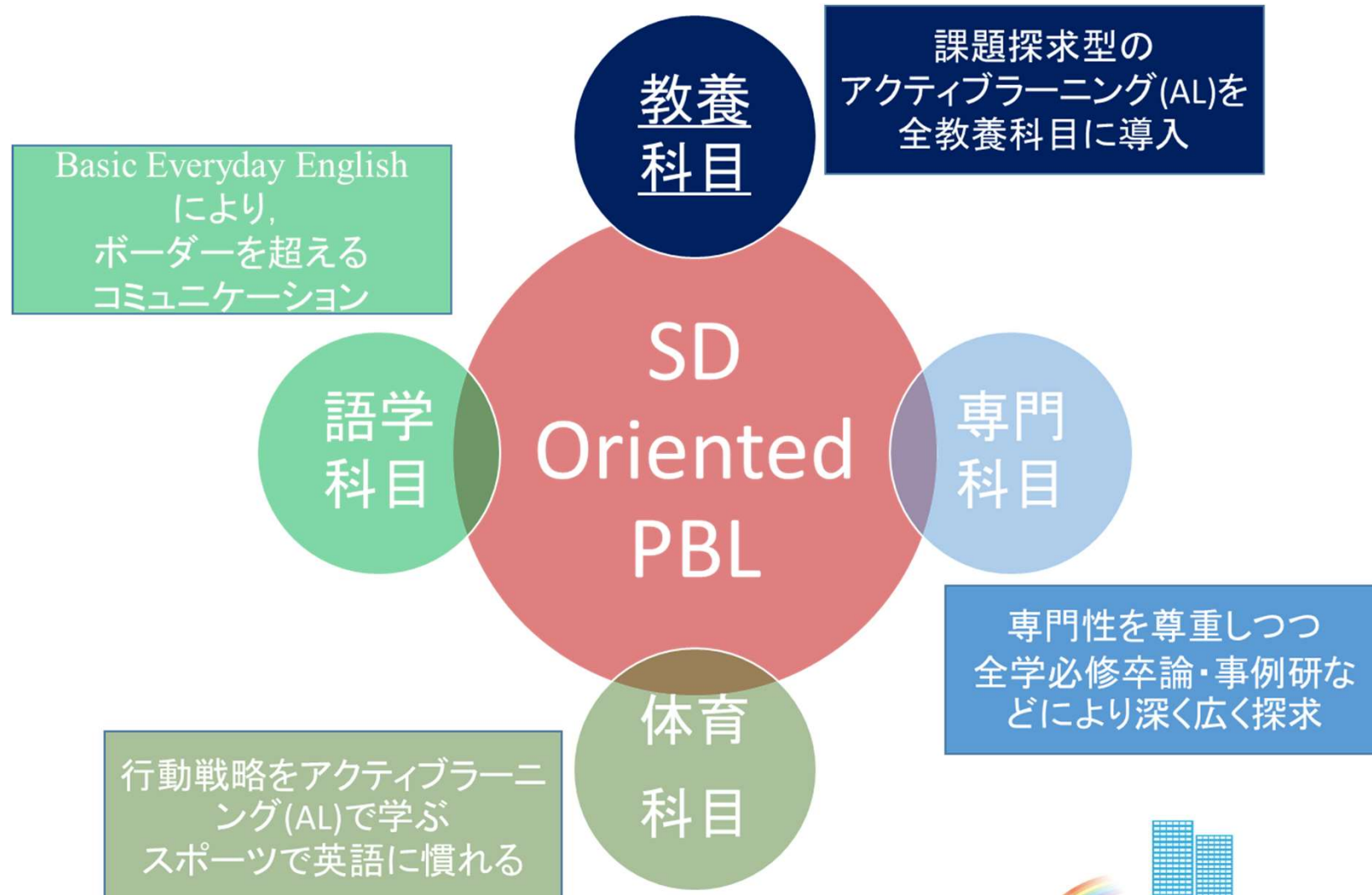
+

学生活動
(部活動
サークル
学生会等)

自分の問題意識に立脚する
「価値があること」+「できること」

主体性

SD Oriented PBLを核とした全学PBL教育



ご清聴ありがとうございました。

＜予告＞ 第2回 東京都市大学APシンポジウム

○日時 平成30年11月13日(火) 13:15～

○場所 東京都市大学 世田谷キャンパス

※9月中旬に、本学APサイト等を通じてご案内いたします

<http://apuer.tcu.ac.jp/>

